目で見る

平成26年４月11日

# 大槌町赤浜地区住民

# 3.11大地震後の軌跡

## 仮設住宅生活期

赤浜公民館

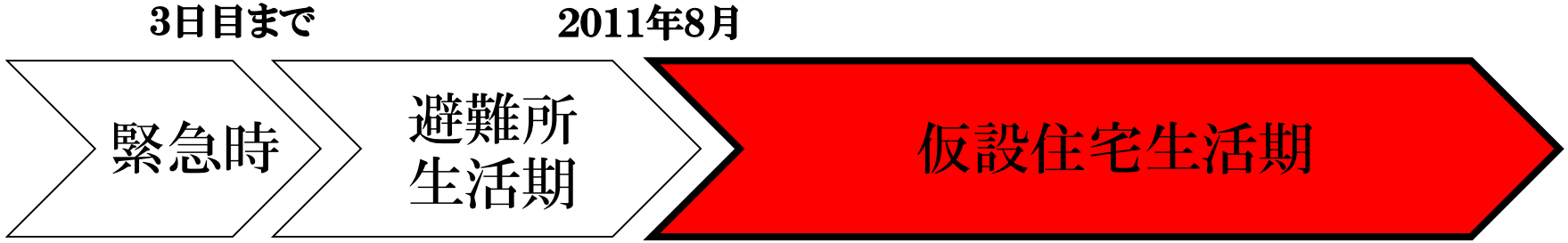
本資料作成にあたって、菊池公男氏及び八幡宮所蔵の写真を提供いただきました。

# 目　　次

1. 仮設住宅の建設

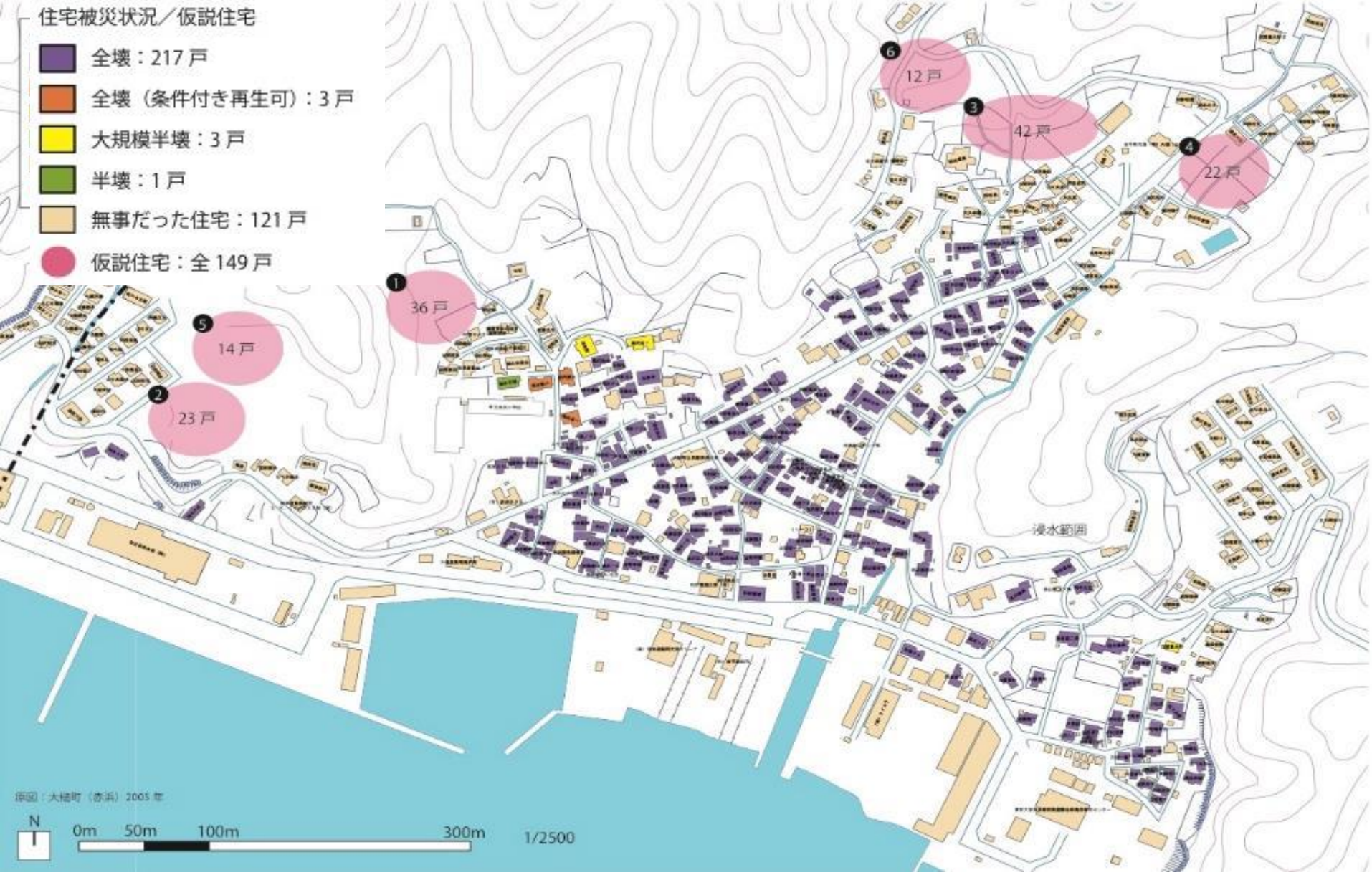
2. 地域の拠点

3. 震災遺構



# 1. 仮設住宅の建設

造成中の仮設住宅(惣川地区)




・赤浜の仮設住宅の多くは、地権者の協力により民地に建設された。

# 仮設住宅の建設

※一部地主の提供申し出と前公民館長の働きかけにより、民間地権者から仮設住宅用地を確保。約9割の赤浜地区住民は、2011年7月から8月にかけて地区内の仮設住宅に入居できた。

・斜面地で民地ゆえの複雑な敷地のかたち

# 談話室の活動

・仮設ごとに自治会が設置されたお茶っこ会など様々な活動が談話室で行われた。

# 2. 消えた地域の拠点（赤浜小学校）

・震災前の赤浜小学校運動会の様子（高学年でヨサコイソーランを演舞しました。）

# 震災前の赤浜公民館

・県道沿い、赤浜の中心に位置し、地区の様々な活動の中心として役割を担っていました。

・平成23年度赤浜小学校卒業式終了後の全児童・生徒、全職員、卒業生保護者の集合写真。
・赤浜地区での最後の卒業式となりました。
・赤浜小学校は24年度から仮設校舎に移り、25年度からは町内4小学校が統合し、大槌小学校となりました。

# 小学校校舎の解体

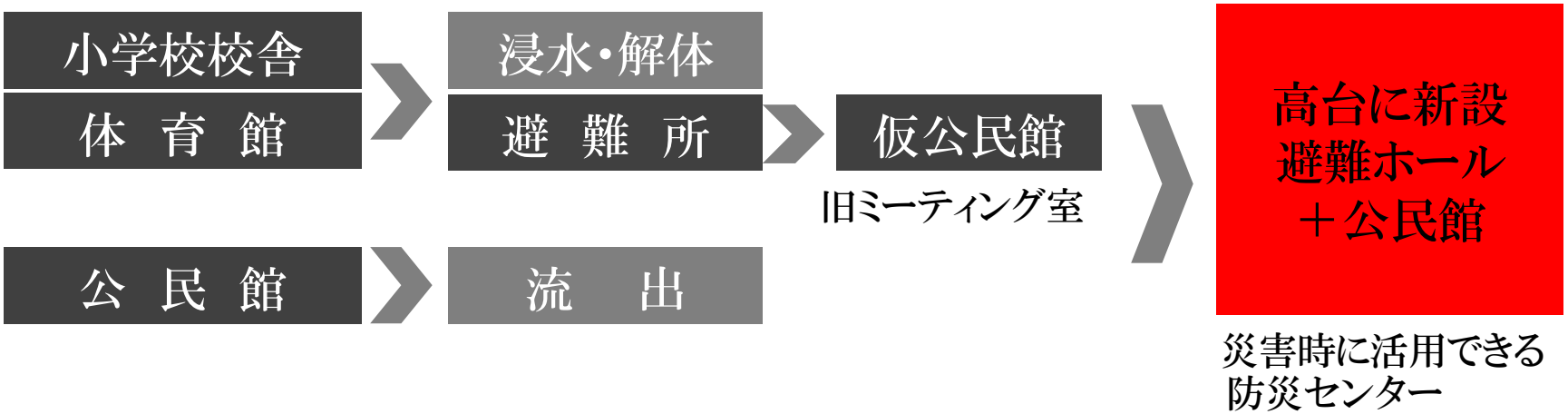
・2階部分まで津波が押し寄せ使用不能となり解体された赤浜小学校です。

# 現在の赤浜地区の拠点

・公民館の施設が流されたので、旧赤浜小学校体育館の一部を利用している。
・現在の赤浜地区の拠点はこの場所となっている。

# 消えた地域の拠点

・震災前の地域の拠点だった赤浜小学校と公民館。
・津波被害により赤浜小学校校舎と公民館が地域から消えた。
・震災後の公民館は、旧赤浜小学校体育館の一部分に置かれている。
・地区の文化の拠点として大きなウエートを占めていた赤浜小学校校舎が大津波の被害により解体された。
・町内小学校統合は震災前にも協議され住民の反対で推進出来ないでいたが震災を大義名分にした「仕方ない状況の流れ」で校舎解体、統合、新小学校と移行した。
・公民館が文化の拠点として地域の位置づけが必要不可欠であるのが衆目一致した事ではあるが公民館も震災で流失しており、早期の復旧を願う。



震災の遺構　No.1

# 3. 震　災　遺　構

・大槌湾に浮かぶ蓬莱島
（昭和39年から5年間NHKテレビで放映された人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされている）

・海の守り神である蓬莱島は大槌町のシンボルでもあると地元赤浜の人間は位置付けている。今回の大津波で灯台は倒壊、鳥居は押し流されてお社も屋根まで浸かったが、祀ってある弁財天や樹木は無事だった。大槌湾のど真ん中で災害に耐えた姿は痛々しいが、後世に語り継がれると思う。
・震災後の平成25年8月8日町の名勝第一号に指定されました。

震災の遺構　No.2

# 赤浜小学校校庭の桜の木

・旧赤浜小学校校庭の桜の木は3分の2が波にのまれ浸水しましたが倒壊することなく震災の1ヶ月半後にはご覧のとおり、見事な花を咲かせてくれました。
・樹齢100年近くの老木（大正3年卒業生が記念として植樹）が大津波に耐え、生きようとするその生命力には驚嘆し、美しさと逞しさを感じます。（写真は震災の平成23年4月撮影）

震災の遺構　No.2

# 赤浜小学校校庭の桜の木

・震災の翌年からは以前にも増して麗しく咲き誇っている桜の木。
・ひょっこりひょうたん島を眺め、今でも地域の子供たちを温かく見守ってくれている。
（写真は震災の翌年平成24年4月撮影）

震災の遺構　No.3

# 世界中に発信された観光船はまゆり

・この船は釜石市所有の観光船「はまゆり」で、シーズンオフで造船所に上架しており、津波に遭遇し流され偶然民宿の屋上に打ち上げられたものです。目撃情報によると3回程ゆっくり旋回して、この場所に留まったとのことでした。押し寄せた波の規模が推し量れる証です。

・写真は震災から1ヶ月経過した時の状況です。この頃はマスコミに取り上げられる回数も増え、ニュースで広く世界に発信されたそうですが、瓦礫の中の「はまゆり」が世界中に発信されていたことなど、地元の人間で気付いている人は少なかったと思います。

震災の遺構　No.3

・解体するために大型クレーン車で釣りあげられた観光船「はまゆり」は、2ヶ月間民宿「あかぶ」屋上にありました。
・この模様はニュース等で大きく報じられ、マスコミを賑わしました。

# 震　災　遺　構

・震災／巨大津波の猛威（恐怖心）の伝承。

・防災の教育の場としての環境整備。

・維持管理費の確保がないと行えない。

※震災遺構の保存・復元はまちづくり計画との一体性がないと難しい。住宅再建など生活に関わることから優先される。

地域内で議論していく必要がある。

# お わ り に

・3.11東日本大震災は私たちに大きな傷跡と教訓を残しました。
　個人々々でその程度は異なりますが、生き残った者の責任として、決して風化させることなく、その実態を後世に伝承しなければならないと思います。

・災害に対する地域の体制は自助、共助、公助の根本を理解し、この度の震災を検証して得られた教訓をもとに役割分担を明確にして対応する必要があると思います。

・災害に強く住み良い地域を作るためには住民のコミニュティが不可欠で、相互理解と思いやりを大切に地域が一体となって体制を構築していかなければならないと思います。

・過去の災害を過小評価することなく、新たな気持ちで再出発しましょう。

赤 浜 公 民 館

## ≪記録作成にあたり≫

・世間では風化という言葉がよく聞かれ、東日本大震災大津波も既に都市部では忘れかけられているのが現実です。至極、当然のことで、それが世間だと思います。
　だけど、当事者である、我々地元の人間が風化させる事は許されることではありません。
　事実をありのままに伝える事が生き残った我々の使命であるとの思いから今回の事業に携わった訳でございますが、赤浜地区住民3.11大地震直後の軌跡「冊子」及び「目で見る記録」を教本として、地区住民全員が語り部となり後世に伝承していきたいと存じます。
　この度の事業遂行に当たり、大勢の皆さまからご指導・ご支援いただきましたことに心から感謝申し上げます。頂いたご恩は生涯忘れることなく時間をかけて報いたいと存じます。
　貴重な記録を有意義に活用することを肝に銘じ、今後の赤浜公民館活動を遂行致したいと存じますので今後ともご指導ご支援よろしくお願いいたします。

## ≪発行元≫

赤浜公民館　〒028-1102　岩手県上閉伊郡大槌町赤浜1丁目2番12号
電話　0193-42-6562（FAX兼用）

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写、電子化および転載することを禁止します。
許諾は上記編著発行元までご照会ください。